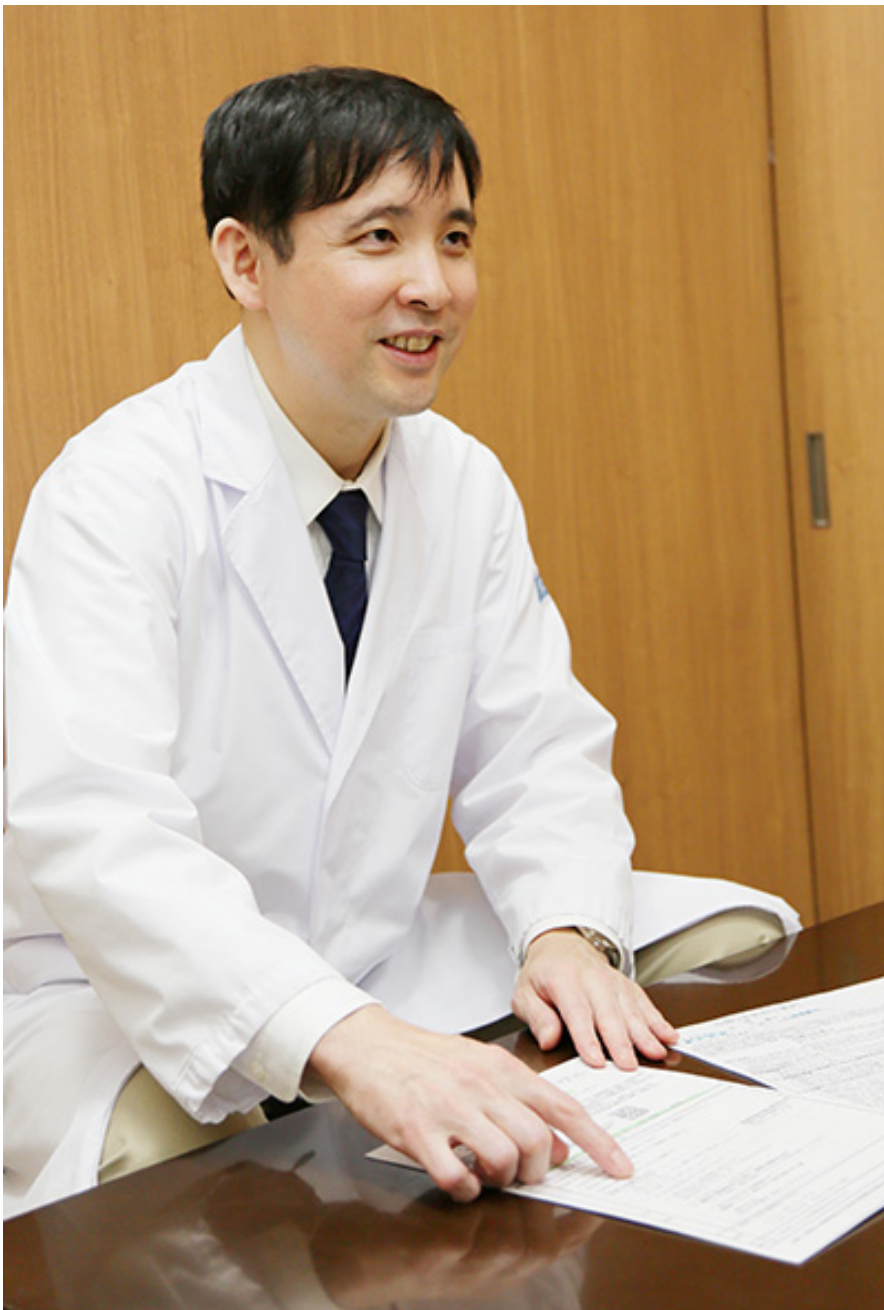


ららぽーと横浜クリニック

## 大西達也 院長

一大ショッピングモールの一角にある「ららぽーと横浜クリニック」。ここには痛みの無い胃や大腸の内視鏡検査や日帰りが可能な肛門手術を目当てに、全国から多くの患者が集まる。同院の大腸内視鏡の挿入法は、麻酔を使わずに無痛の検査を可能にする独特の技術だ。大腸内視鏡検査数は年間約7500件、胃内視鏡検査を含めると実に年間約1万5500件（※2015年9月現在）にも上る。また、肛門の日帰り手術（痔核・痔瘻・裂肛等）も全国最多の年間3000件以上で、まさに「日帰り手術センター」となっている。国内に同等の技術を持つクリニックはないと言われる卓越した技術の秘密について、大西院長に聞くとともに、医師を志したきっかけや自身が経験した病気のことまで、知られざる素顔にも迫った。（取材日2016年7月1日）



### 独自の内視鏡検査法で痛みを軽減。がんの早期発見・予防へ

—まずはクリニックの特色から教えて下さい。  
まずは無痛で行える大腸内視鏡検査の技術です。大腸という臓器は固定されていないため、普通の病院では肛門から内視鏡を挿入すると、腸が胸の方向に突き上げられて痛みが生じるのですが、当院では空気を全く入れず、大腸を伸展させることなく内視鏡を挿入していくので、痛みが生じないんです。この「完全無送気軸保持直線的挿入法」と呼ばれる当院発祥の技法は、専門医でもなかなかマスターできない究極の技術です。この技法で検査を行えば、麻酔を使わず軽い鎮静剤のみで無痛の検査が可能ですし、検査後のリカバリーも早いですよ。単に麻酔をたくさん使うことで「無痛」をうたっている医療機関とは全く別次元の検査法なのです。

### —どのようにして独自の内視鏡技術を開発されたのですか？

「完全無送気軸保持直線的挿入法」は、私が開業前に勤務していた東京大学医学部付属病院や東葛辻仲病院で出会った技術をヒントに独自に発展させた、言わば「大西オリジナル」の技術なんです。技術を発展させていく過程では、千本ノックと同様にとにかく豊富な検査をこなしたのはもちろんのこと、毎日毎晩「楽な検査を行うにはどうすればベストなのか」を深く考え続けて翌日に実践するなど、飽くなき追求を重ねていきました。それこそ夜中にふとアイデアが浮かんで目を覚ますなんてこともしょっちゅうありましたよ。ちなみに内視鏡学会の専門医の認定基準は「大腸内視鏡検査を100件以上施行」ですが、当院の「完全無送気軸保持直線的挿入法」の習得には最低でも5000件以上の経験が必要なくらい難解な技法なんです。

### —こちらの内視鏡検査数や手術数は飛び抜けていますね。

2015年度の実績ですと、大腸内視鏡検査は年間約7500件、胃内視鏡検査は年間約8000件ですから、合わせると年間約1万5500件に上ります。クリニックとしては断トツで全国NO.1の数字でしょう。楽に検査を受けられた患者さんが口コミで親戚やご家族を紹介してくださるケースが多く、北海道から沖縄まで全国から、時に海外からも患者さんがいらつやいます。日本人の胃癌や大腸癌が増えていることや、内視鏡検査の予約を当院のホームページから簡単に行えることも関係していると思います。

当院では肛門の日帰り手術も行っています。痔の根治手術は難しい手術であるため、普通の病院では10日から2週間程度の入院が必要です。それを日帰りで治せるクリニックは、全国で当院がほぼオンリーワンだと思います。現在、痔の日帰り手術を年間3000件以上施行しており、こちらも全国NO.1でしょう。

### 立地を生かし内科や皮膚トラブルの診療にも取り組む

### —こちらのクリニックはとても便利な場所にありますね。

そうなんです。たくさんの方が集まるショッピングモールにクリニックを構えられるなんて、とても恵まれていると思います。近隣にお住まいのファミリー層のニーズにもお応えできるクリニックでありたいと考え、内科・皮膚科・アレルギー科も診ています。雨の日でも濡れずに来院でき、買い物ついでに高血圧の薬が欲しいとか、風邪や皮膚のトラブルを診てもらいたいという患者さんがたくさん来院されています。

「手術を行うクリニックが皮膚科やアレルギー科を併設するのは珍しくありませんか？」

実は私自身、高校生の時に重度のアトピー性皮膚炎を発症しました。主に顔と背中に症状がでてしまい、大学受験の時も顔に汁いっぱい試験を受けたりしました。顔のアトピーは目立つし気になるし、それだけで心のメモリーを9割ほど奪われます。本当につらかったですね。それでも運動好きだったので大学入学後はアメリカンフットボールをしましたが、汗でアトピー症状がどんどん悪化していき、ついには東京大学医学部附属病院に入院することになりました。当時、医学生だった私にとって、本格的なアトピー性皮膚炎の治療を一通り体験できたのは大きな糧となりました。同じ病室の患者さんから、「君は医者になるんだろう？ いい治療法を作ってくれよ」なんて激励されたりして、使命感に燃えたものです。今では体質改善に成功し、すっかり良くなりましたが、アトピー性皮膚炎のつらさは嫌というほど知っているし、あの病室で一緒につらさを乗り越えてきたアトピー仲間のことを今でも忘れていません。だから



皮膚科やアレルギー科に力が入るのは当然のことなのです。

「最終的に外科に進まれたのはなぜですか？」

外科医は何でも一通りできる、そこが魅力でした。例えば脳挫傷の患者さんが運び込まれてきても初期治療はできるし、専門が消化器でも、大学から市中病院へ出れば肝胆膵はもちろん甲状腺や肺や乳腺の手術も担当します。そうなるとう全身のジエネラリストで、1人でほぼどんなケースも対応できる。医師の間でも、とりあえず外科医が一人いれば患者さんの命をつないでおけるといふ存在なんです。また、外科医って精神的にも逞しいんです。戦場のように過酷な臨床現場で他科のドクターの足がすくんでしまう場面でも、外科医は「何でも来い！」という感じで次々と処置を進めていくように肝が据わっているタイプがほとんどなんです。

私は高校生の時に、人に必要とされる人間になりたい、自分という存在の意味を確認したいという思いで、文系からわざわざ理系に転向して医者を目指したので、医学部卒業後は頼りにされる存在の外科医を目指しました。

### 本当に患者に優しい医療は最高の技術から成る

「日々の診療ではどんなことを大切にされていますか？」

患者さんに優しい医療です。優しいというのはただニコニコするという事ではなく、高い技術という裏づけが必要なんです。最高の技術が伴って始めて、本当に優しい医療になると思うんです。そのことに気付いたのは医師になってまだ2、3年の頃です。修業の意味で大病院から外の病院へ出た時に、多くの患者さんが心から信頼できるドクターを求めて右往左往

している現実を目の当たりにし、私は患者さんに「決定版」として選ばれるドクターでありたいと痛切に感じました。そのためには自分の優れている点をはっきり言えなければなりません。「自分にはこういう技術があります。だからオンラインワン、ナンバーワンです」と。私の場合は内視鏡検査と肛門の日帰り手術の技術ですね。現在では、内視鏡検査や肛門の日帰り手術のために当院にお見えになる患者さんの多くが、初めから当院を決定版として選んでくださっていることを日々実感しています。

「休診日は週一日と、たいへん仕事熱心でいらっしゃるようですが、息抜きをする時間はあるのでしょうか？」

休診日は普段の診療時間内に対応しきれない内視鏡検査にあてることも多いので、丸一日休みというのは実はほとんどありません。たまの休日には温泉旅館や軽いアウトドアも嗜んだりしますが、息抜きと言えば、おもに診療終了後ですね。幸い、ららぽーと横浜はシヨッピングもできるし映画館もあるので、夜7時に診療を終えてから映画を見ても10時には帰宅できるんですよ。いいでしょうか？ 東京大学医学部の客員講師や一部上場企業の産業医も兼任しており、都内に仕事で出かけた時には、グルメを楽しんでいます。

休みが少なくても私は一向に構いません。自分の実力を出し切れる環境で、これだけ多くの患者さんに求められているのだから、文句を言ったらバチが当たりますよ。

毎日がすごい数の内視鏡検査、肛門の日帰り手術、外来診療の繰り返しですが、私は真のプロフェッショナルというものは自分の専門分野と毎日でも向き合えるくらい心の熱量が溢れているものだと思います。



「今後どのようなクリニックづくりをお考えですか？ 展望をお聞かせください。」

規模はこれ以上大きくするつもりはなく、それよりも医療の質や効率を上げて患者さんやスタッフの満足度を向上させていきたいと考えています。今、当院には看護師・医療事務スタッフが約50人、医師が私を含め約20人いますが、医師を採用するときには各病院のトップレベルのドクターしか採用しません。面接だけでなく実技試験も行いますよ。採用される側にとっては厳しすぎるくらいの基準を設けていますが、それも全ては患者さんのため。「それくらいしかってどうする！」という強い気持ちで採用に取り組んでいます。

今後も、遠隔地から来院する価値のある最高水準の専門診療（内視鏡検査・肛門の日帰り手術）と、近隣の患者さんの役に立てる内科・皮膚科・アレルギー科の一般診療とを両立し、上質で安心の医療を提供できるクリニックであり続けたいと思います。